

## スペイン語における性をめぐる記述に関する予備的考察<sup>1</sup>

外国語学部 糸魚川美樹

### 1. はじめに

スペイン語は「ジェンダー化」「性別化」という特徴の強い言語である(糸魚川 2003, 2005)。「ジェンダー化」とは、人を表す名詞について、「社会的カテゴリーである性別を基準にした二分法」によって名詞の性が決定される現象を言う。「ジェンダー化」には、「女性化」と「男性化」があり、「女性化」は、ある女性に言及するために、新しく女性(形)名詞が使用されるようになること、同様に男性化は、ある男性に言及するために、新しく男性(形)名詞が使用されるようになることを言う(糸魚川 2003, 124-125)。

わかりやすい例として職業名詞があげられる。20 世紀初頭からの女性の社会進出にともない、それまで男性が占めていた職業に女性が就くようになり、そのような「新しい女性」をどのように表すかが問題となる。その際、女性化を奨励する議論と、それに反対する議論が登場するが、フェミニストや一部の文法家、政府や行政の政策的奨励もあり、それまで男性形しかなかった職業名詞の女性化がすすんだ(糸魚川 1997, 2005)<sup>2</sup>。この問題が盛んに議論されるようになった 1980 年代後半から 20 年たった現在でも、女性化と女性名詞の使用をめぐる議論は続いている(FundéuBBVA 2009, Vigara Tauste 2009)。

ジェンダー化していく言語について、人の表され方の考察をすすめていけば、性的マイノリティはどのように表されるかという問いにおのずとぶつかる。女性化も社会のマイノリティである女性の可視化をうったえる手段として奨励されてきた側面がある。さらに、近年スペイン語圏では、性的マイノリティにマジョリティと同等の権利を保障する動きが顕著になってきている<sup>3</sup>。ジ

---

<sup>1</sup> 本稿は、科研費(課題番号 21520584、研究代表者:堀田英夫)の助成を受けた研究成果の一部である。

<sup>2</sup> 同じロマンス諸語であっても女性化現象は言語により異なる。フランス語の女性化については藤村/糸魚川(2001)を参照。なお、そこでも論じているように、フランス語では、男性名詞 *capitaine*(大尉)、*professeur*(教師)、*premier ministre*(首相)は、女性に言及する場合であっても性や語形を変えないのが一般的である。このように指示対象の性に名詞の性が影響されない一方、フランス語には「自動車」を意味する女性名詞 *une voiture* や *une auto* を人間の女に見立てたり、エッフェル塔 *la Tour Eiffel* を「パリの老婦人」と擬人化するなどの現象があり、これもジェンダー化＝「社会的カテゴリーである性別を基準にした二分法」の別の現象としてとらえることが可能であろう。この点については、別の機会に論じる。

<sup>3</sup> スペインでは 2005 年に同性どうしの法律婚が認められ、後述するように 2007 年にはジェンダーアイデンティティに関する法律が制定されている。ラテンアメリカ諸国でも同様の動きが観察される。この法律により、ある一定の条件を満たした場合登録上の性別と名前の変更が可能となる。

エンダー化がすすむ言語では、社会の性規範から逸脱しているとみなされる人々はどのように表現されているのか。この考察をすすめる準備として、本稿ではまず「性別／性」を意味する語の使用について再考する。

## 2. あいまいな性

社会的文化的性別=ジェンダー(*género/gender*)という概念の登場により、それまで「性別」としてのみ表されていた概念=セックス(*sexo/sex*)が、生物学的性別=セックス(*sexo/sex*)と社会的文化的性別=ジェンダー(*género/gender*)にわけて考えられるようになった。さらにその後、セックスとジェンダーの二項対立に疑問が投げかけられ、ジェンダー論では、「生物学的性別」もジェンダーであるという議論が起こり、ジェンダーの概念は現在でも変化し続けている。日本語では、英語からの借用語をカタカナ語のまま用いて表すことがあるが、学術分野を除いては定着しているとはいえない<sup>4</sup>。これらの概念に言及する場合、「性」という漢字を使うことが多く、そのことから、「性／性別」が示す内容は多岐にわたり、文脈によって「体の(生物学的、解剖学的)性別」「社会的文化的性」「アイデンティティとしての性別」「性的指向(セクシュアリティ)」などの解釈が可能である<sup>5</sup>。

### 2.1 「性」-*sexo* o *género*

英語において、*gender* が言語学用語としてだけでなく、「社会的文化的性」「性のあり方」という概念を指す語として用いられるようになり、さらに *sex* で表されていた「性／性別」にかわって、*gender* が使用されるようになると、スペイン語にも同様の変化が観察されるようになる。

García Mouton(2002)によれば、ジェンダー概念を指した *género* の最初の用法として文献名から確認できるのは 1987 年出版のもので、その使用が定着してきたのはもっと後のことであるという。とくに、1995 年世界女性会議北京大会において英語の *gender* が使用されたことは、その他の言語における「性／性別」を表す語彙に影響を与えており、スペイン語もそのひとつである(Real Academia Española 2005, 310)。その後、社会学などの学術専門分野に限られていたジェンダー概念を指すための *género* の使用がマスメディアに広がった際、その使用について反発を招いた。前述したように、その意味内容自体が変化しつづけていること、スペイン語の *género* は「文法上の性」を指すほかに「種類」「流儀」「商品」「ジャンル」「属」などを意味する用法があること、それを無視して英語の使用をそのまま受入れたことを考えると当然のことであるといえる。

<sup>4</sup> 日本における「ジェンダー」の受容過程については、齊藤(2009)を参照。

<sup>5</sup> ベアード(2005, 8)は「性」を表す語彙について「研究者たちでさえ、用語のねじれに陥り、その多くは論争になったままである」と述べる。

1999年スペインで展開された、女性に対する男性からの暴力反対を訴えるための運動のなかで、その暴力を指すために *violencia de género* という表現が使用された。この運動をマスメディアがとりあげた際、*género* の使用が問題化した。それまで「男性からの女性に対する暴力」には、*violencia contra las mujeres/ violencia de sexo/ violencia sexual/ violencia doméstica* などが使用されていた<sup>6</sup>。この *género* の使用に対し、*género* は文法上の性 (*género gramatical*) を表す語であり、人間の性／性別に言及する使い方はないという一部の文法家や言語学者、ジャーナリストからの反発と、それへの応酬がその議論の中心であった。2002年に出版された論集 '*Género, sexo, discurso*' のなかでこの問題が Andrés Castellano (2002) と García Mouton (2002) によってとりあげられている。前者は *género* の使用を推進する立場から論じており、後者は使用の定着を認めながらもスペイン語における *género* の解釈のあいまい性や英語中心主義に言及し、(スペイン語圏の) フェミニストは、なぜ英語の影響を受けた (*anglicado*) この使用を問題にもせず、何もいわず (*sin rechistar*) に受入れたのか、と問いかけている。

*sexo* や *sexual* を使って表していた「性／性別」が、2000年代初頭から *género* という語により表される用例の増加が目立ってきているが、現在でも *DRAE*、*María Moliner*、*Salamanca*、*Clave* など主要なスペイン語辞典において、*género* の項目に「文法上の性」以外の「性／性別」の定義は記載されていない。ただし、2004年にスペインで可決された *Ley Orgánica de Medidas de Protección Integral contra Violencia de Género* (性にに基づく暴力に対する保護に関する法律) において「性にに基づく暴力」を *violencia de género* と表現したことに関連して、スペイン王立アカデミー (RAE) は、*género* の使用に関する見解を示している。2004年5月19日付けで RAE のウェブページ<sup>7</sup> で、さらに 2005年に RAE により出版された *Diccionario panhispánico de dudas* における *género* の項でそれを確認することができる (RAE 2005, 310)。それによれば、人間がもっているのが *sexo* であり、単語がもっているのが *género* である [*las palabras tienen género (y no sexo), mientras que los seres vivos tienen sexo (y no género)*]。また、フェミニズム理論においては、単なる生物学的カテゴリーには *sexo* という語が使用され、社会文化的カテゴリーには *género* が使用される。社会学の専門分野では、この区別は有効であり必要である。ただし、この明確で専門的意味なしでつぎの例にみるような *sexo* の類義語としての *género* の使用は認められないとしている (下線は引用者による)。

<sup>6</sup> これ以外にも、*violencia de los hombres* と呼ばれる。夫婦や親密な関係における暴力全般を言う。なお、「性暴力」における「性」が指す概念については、杉村(2004)を参照。

<sup>7</sup> 以下を参照。

[http://www.rae.es/rae/gestores/gespub000001.nsf/\(voAnexos\)/archBB81F7452A4355C0C12571F000438E7A/\\$FILE/Violenciadeg%C3%A9nero.htm](http://www.rae.es/rae/gestores/gespub000001.nsf/(voAnexos)/archBB81F7452A4355C0C12571F000438E7A/$FILE/Violenciadeg%C3%A9nero.htm)

El sistema justo sería aquel que no asigna premios ni castigos en razón de criterios moralmente irrelevantes (la raza, la clase social, el género de cada persona)

*El país* 2002. 11.28

(公正なしくみというのは、倫理的に取るに足らない基準(各人の人種、社会階層、性別)によって賞や罰を与えないものであろう。)

Los mandos medios de las compañías suelen ver como (sic) sus propios ingresos dependen en gran medida de la diversidad étnica y de género que se da en su plantilla.

*El mundo* 1995. 1.15

(会社の中間管理職は、自分たちの収入が、社員の民族および性別の多様性にいかに大きくよっているかをしばしば目にする)

この2つの例から考えると、「人種、社会階層」「民族」のような人間を分類するために用いられるカテゴリーとしての「性別」に言及する際には **sexo** を使用するのであって、**género** という語を使用することは認められないということになる。しかし、この場合の「性別」が、RAE が認めている社会学で使用されている「明確で専門的な意味」ではないと判断することは可能だろうか。

「性別」も、それと同等に並べられている「人種、社会階層」「民族」も人間が作り出したカテゴリーである。「社会文化的カテゴリー」としての「性別」を指すのに **género** の使用が認められるのであれば、この2つの例に **género** の使用が認められない厳密な理由を読み手が理解するのは難しいのではないか。

以下では、「性／性別」を意味する表現をとりあげ、現在の使用に明確な使い分けがされているのかを検討する。

## 2.2 法律上の記述

まず、スペインで 2007 年に制定された「性別についての登録の訂正に関する法律」(Ley reguladora de la rectificación registral de la mención relativa al sexo de las personas)(通称、Ley de identidad de género)から、「性別」を意味する表現をとりあげる。「性別」を意味する語を含む名詞句で抜粋するが、どの「性別」を指しているかわかりにくい場合、その範囲を広げとりあげることとする。なお、重複する例は除く(以下、下線は引用者による)。

- 1) (a)l sexo de una persona en el Registro Civil 登録台帳における、ある人の性別
- 2) su identidad de género その人の性別アイデンティティ
- 3) el sexo reclamado 要求されている性別
- 4) la inicial asignación registral del sexo 性別の最初の登録(出生児の性別登録)
- 5) el sexo con el que inicialmente fueron inscritas 人が最初に登録された性別
- 6) la rectificación de la mención registral del sexo 性別の登録記載の訂正
- 7) la rectificación del sexo conllevará el cambio del nombre propio de la persona ...  
性別の訂正は、個人名の変更も結果として伴う
- 8) su sexo registral その人の登録上の性別
- 9) disforia de género 性の不快
- 10) sexo morfológico 形態学上の性
- 11) género fisiológico 生理学上の性
- 12) sexo psicosocial 心理社会的性
- 13) la rectificación registral de la mención del sexo 性の記載についての登録上の変更
- 14) cirugía de reasignación sexual 性別再適合手術
- 15) el cambio del sexo 性別の変更
- 16) Notificación del cambio registral de sexo 性別の登録変更の告知

この法律では、登録上の性別にはsexoを使い、個人のアイデンティティとしての性別に言及する場合はgéneroを使っていることがわかる。使用されている文脈から考えると、この登録上の性別というのは、3)要求されるもの(reclamado)であり、4)割り当てられるもの(asignación)であり、6)7)訂正されるもの(rectificación)であり、15)16)変更されるもの(cambio)でもある。出生時に医師の判断によりsexoが割り当てられ、それが登録される。それを「不快」に感じた場合、ある一定の条件の下で変更が可能であるという法律である。前述したようにRAE(2005)はsexoを「人が持っているもの」としているが、この法律にあらわれる用法では「(社会によって)人が持たされているもの、人に割り当てられているもの」という性質が強いという考えかたもできるのではないか<sup>8</sup>。

---

<sup>8</sup> この解釈であれば、RAEがgéneroの用法として認めることができないとした2つの例も説明されやすいのではないだろうか。「性別」も「人種、社会階層」「民族」という「社会によって割り当てられたカテゴリー」となる。すなわち、「社会によって割り当てられたカテゴリー」としての性別＝「登録上の性別」にはsexoを使用する。RAEのいう「人がもつ」という意味では、むしろアイデンティティとしての性別にその性質が強いのではないか。

一方で、つぎに見るようにこの法律で使用されている以下の4つの表現は、なぜ *sexo* または *género* を用いるのかを説明するのは難しい。

10) *disforia de género* 性の不快

11) *sexo morfológico* 形態学上の性別

12) *género fisiológico* 生理学上の性別

13) *sexo psicosocial* 心理社会的性別

10)から 13)は、性別の登録変更を行うための条件を述べた項(第4項)で、つぎのように現れる。

10)' *Que le ha sido diagnosticada disforia de género*

(性の不快が診断されていること)

11)'-13)' ... la existencia de disonancia entre sexo morfológico o género fisiológico inicialmente inscrito y la identidad de género sentida por el solicitante o sexo psicosocial ...

(最初に登録された形態学上の性別または生理学上の性別と、申請者によって感じられる性別アイデンティティまたは心理社会的性別の間の不一致の存在)

体の性別と心の性別の不一致のことを述べていると理解できるが、体の性別について「形態学上の性別または生理学上の性別」とし、前者に *sexo*、後者に *género* を使っている。前述した「生理学上の性別」に *género* が使われていることは RAE(2005)の基準には合わないといえる。心の性別については、「性別アイデンティティまたは心理社会的性別」とし、同様に *género* と *sexo* の両方を使っている。11) については、*sexo morfológico* を *género morfológico* にした場合、言語学での「形態論上の性」という意味と混同される可能性が大きくなることが考えられるため、*sexo* が選択されている可能性が考えられる。しかし、それ以外についてはそれぞれの分野での用法や本法律制定の議事録を確認するなどさらに詳しい分析が必要である。

### 2.3 ニュース記事における「性別」

では、ニュース記事ではどうか。2009年8月に開催された世界陸上ベルリン大会での性別検査を扱った記事を見ていく。同じ事柄を扱う記事を対象にすることで、表現比較を容易にするためである。ここでは、ウェブ上で見つけることができた12の記事について、「(ある人の)性別」「性別検査」という表現に限定してとりあげる。なお重複する表現は除いた。

[1] *Mundo Deportivo* 2009 9.12

17) ... después de que algunos médicos hayan filtrado ya los resultados de las pruebas de verificación de sexo de ... (...の性別検査)

18) ... ha publicado que la prueba de sexo ... determina que es hermafrodita. (性別検査)

19) ...a las personas cuyo sexo no está bien definido. (性別が明確に決まっていない人)

[2] *El periódico* 2009.09.12

20) ...las dudas sobre sexualidad de ... (...の性別についての疑い)

21) ... la IAAF habría recibido ... los resultados de los análisis sobre el sexo de ... (...の性別についての検査)

[3] *La vanguardia* 2009.08.21

22) ... reveló que los tests de asignación de sexo ... (性別判定検査)

[4] *Epa* (european pressphoto agency) 2009.09.11

23) El hecho de que las pruebas de sexo, según varios medios internacionales, indiquen que ... (性別検査)

24) ... el hecho de que se haya puesto en duda el sexo de la atleta es ... (選手の性別)

25) ... es una “heroína” deportiva y “víctima inocente” de la polémica que se ha generado sobre su sexo. (その人の性別)

[5] *El país* 2009.08.28

26) ... tenían que someterse a un control de sexo. (性別検査)

27) El objetivo de las pruebas de sexo era evitar ... (性別検査)

[6] *El país* edición impresa. 2009.08.25

28) ... todas las mujeres, salvo una, que desearan participar en los Juegos Olímpicos debían someterse a un control de sexo. (性別検査)

29) (COI) suprimió los controles de sexo. (性別検査)

[7] *El Universo*, 2009.09.13

30) ... provocaron las conjeturas sobre su género ...

(...がその人の性別についてそのような憶測を引き起こした)

[8] *El universo* 2009.08.25

31) Se duda sobre la sexualidad de ... (...の性別について疑問がもたれている)

32) Ahora, las dudas las genera la corredora ..., cuyo género se encuentra bajo investigación.

(その選手の性別が検査下にある)

[9] *BBC Mundo* 2009.09.11

33) IAAF recibió los resultados de los exámenes de género ... (性別検査)

[10] *Univision.com* 2009.09.11

34) IAAF tiene pruebas de género de ... (...の性別検査)

35) IAAF anunció el viernes que recibió los resultados de las pruebas de género de ...

(...の性別検査)

36) ... que los resultados de las pruebas para confirmar el género serán examinados por un grupo de médicos... (性別を確認するための検査)

37) ... ya desde antes había suscitado especulaciones sobre su género ... (その人の性別)

38) ... le había pedido ... que realizaran una verificación de género ... (性別検査)

[11] *El Universal* 2009.09.12

39) ...sostuvieron una reunión para analizar la información publicada sobre el género de la atleta (その選手の性別について)

40) (IAAF) , que ordenó las pruebas de género a ... (性別検査)

[12] *ABC* 2009.09.11

41) ... en medio de la polémica sobre su género (その人の性別について)

以上 24 例から考えてみたい。「(ある人の)性別」には *sexo* という語が用いられる例が多いものの *género* の使用も確認できる。さらに、20)と 31)に *sexualidad* という語も使用されている。これらの表現については、その人の何(身体的特徴として/アイデンティティとして)の性別に言及しているのかを文脈から判断することはできない。英語の *sexuality* にあたる *sexualidad* については、日本語では一般に「セクシュアリティ/性的指向」と訳され、「欲望と指向」に関わる

概念(ベアード 2005)で、異性愛、同性愛、両性愛の上位概念と解釈される。陸上競技に性的指向が問題になることはあり得ないと考え、ここでは「性別」と訳した。ただし、この語とは別に、20)と同じ記事内の 21)では *sexo* が、30)と同じ記事内の 31)では *género* が「性別」の意味で使用されていること、*sexualidad* の接尾辞-*idad* が「性状」を意味することから、「(ある人の)性別のあり方」を表しているという解釈も可能である。

次に「性別検査」と訳することができる表現をみていく。これについても、*sexo/género* の両方が使用されている例が確認できる。

- 17) *las pruebas de verificación de sexo* (性別検査)
- 18) *la prueba de sexo* (性別検査)
- 21) *los análisis sobre el sexo* (性別についての検査)
- 22) *los tests de asignación de sexo* (性別判定検査)
- 23) *las pruebas de sexo* (性別検査)
- 26) *un control de sexo* (性別検査)
- 27) *las pruebas de sexo* (性別検査)
- 28) *un control de sexo* (性別検査)
- 29) *los controles de sexo* (性別検査)
- 33) *los exámenes de género* (性別検査)
- 34) *pruebas de género* (性別検査)
- 35) *las pruebas de género* (性別検査)
- 36) *las pruebas para confirmar el género* (性別を確認するための検査)
- 38) *una verificación de género* (性別検査)
- 40) *las pruebas de género* (性別検査)

「性別検査」またはそれに相当する表現が 15 件確認された。冠詞を無視して考えてみると、「検査」に *pruebas/ verificación* という語を使う場合には、*sexo/género* の両方が使用されている例が確認される。一方、3 件の例が確認できる *control(es)* では *sexo* の例のみであった。それ以外は 1 例ずつで *sexo* の例 21) 22) と *género* の例 33) がある。「検査」を意味する語により「性別」を意味する語も限定されるのか、「性別」の何について、または何(身体的特徴として/個人アイデンティティとして)の「性別」についての検査かにより、「性別」を意味する語も限定されるのか、それともこれらとは無関係なのか、判断するためにはより詳細な分析が必要である<sup>9</sup>。

---

<sup>9</sup> なお、「生殖器」「性器」などの器官を指す際には、*órganos sexuales*[8], *aparatos sexuales*[12],

以上みてきたように、法律に関わる「登録上の性別」はsexoで表されているが、ニュース記事に現れるそれ以外の「性別」にはgénero/sexoが混在している。これについては、「性／性別」概念のあいまい性によるものなのか、新語を使用したがるメディアの特徴なのか、英語の影響によるものなのかなど、様々な視点からさらに検討を加える必要があると思われる<sup>10</sup>。いずれにしても性別が問題になる文脈では、厳密に表そうとするならば、「登録上の」「体の」「心の」「自己表現としての」「アイデンティティとしての」などの説明が求められる状況になってきている。

本稿で取り上げたような、性的マイノリティの権利を保障するための法整備や医療技術の進歩により、将来個人が選択できない性別は出生時の登録上の性別だけになるということもあり得ないことではないであろう。その意味では、sexo が「登録上の性別」に言及する際に特化される可能性もあり、この問題を引き続き考察の対象としたい。

### 3. 今後の課題

「性／性別」(sexo/género/sexualidad)が指す意味内容が多様で混乱していること、使い分けの基準がなく、多くの場合は置換可能な類義語として用いられている現状を確認した。このことは当然、「性／性別」の下位分類である「男性／女性」も実はその境界があいまいであることが近年少しずつであるが認知されつつあることと強く結びついている。「女らしさ」「男らしさ」の多様化やその境界があいまいになってきていることをはじめ<sup>11</sup>、体の性と心の性が一致しない性同一性障害の存在もメディアでとりあげられることが多くなってきている。性的指向についていえば、男であれば女、女であれば男という異性愛が依然多数派ではあるものの、同性どうしの法律婚を認める国や地域も増えている。出生時に医師が身体的特徴から判断する性別についてもその判断が難しい場合あり、男性／女性両方の特徴をもつ人の存在、その人たちやその家族がかかえる問題がメディアでもとりあげられるようになってきた<sup>12</sup>。

ジェンダー化現象が顕著であるスペイン語において、性の境界を生きる人たちがどう表されているのか、女性化を推進したフェミニズムはこの点とどう折り合いをつけるのだろうか。今後の検討課題としたい。

---

órganos reproductores de ambos sexos[1]が確認できたが、género で言及する例は今回の分析対象とした記事にはなかった。

<sup>10</sup> 斉藤(2009)は、日本の女性学におけるカタカナ語「ジェンダー」の受容過程を厳しく批判的にとらえており、今後この考察をすすめていく上で大いに参考になる。

<sup>11</sup> たとえば、「草食系男子」(森岡 2009)という現象。

<sup>12</sup> 2009年9月29日から毎日新聞「くらしナビ」のコーナーで、「性分化疾患」が6回にわたり連載された。「性分化疾患」は一般に「インターセックス」「両性具有」「半陰陽」と呼ばれてきた。同紙によれば、今年9月日本小児内分泌学会が「性分化疾患のある新生児の性別を判定するためのガイドラインを策定」する。

## 参考文献

- 糸魚川美樹(1997)「スペイン語における女性形職業名詞—女性形名詞形成の背景と女性形が持つ意味合い—」『イスパニカ』41号, 日本イスパニヤ学会, 13-25
- 糸魚川美樹(2003)「男の表され方」にみるカスティーリャ語のジェンダーに関する一考察」『イスパニカ』47号, 日本イスパニヤ学会, 121-135
- 糸魚川美樹(2005)「ジェンダー化された言語のゆくえ」『社会言語学』5号, 「社会言語学」刊行会, 85-103
- 斉藤正美(2009)「女性学はなぜカタカナ語「ジェンダー」を守るのか—社会言語学的アプローチによる「ジェンダー」受容過程の再検討」『社会言語学』9号, 「社会言語学」刊行会, 139-174
- 杉村直美(2004)「高校生と共有できる「性暴力」の定義を求めて」『女性学年報』25号, 159-180
- 藤村逸子・糸魚川美樹(2001)「フランス語における職業名詞の女性化—カスティーリャ語との比較—」『名古屋大学言語文化部・国際言語文化研究科言語文化論集』18-1, 141-156
- 森岡正博(2009)『最後の恋は草食系男子が持ってくる』マガジンハウス
- ヴァネッサ・ベアード(2005)『性的マイノリティの基礎知識』町口哲生訳, 作品社
- Ambadiang, Théophile (1999) “La flexión nominal. Género y número” Bosque, Ignacio y Violeta Demonte (dir.) *Gramática descriptiva de la lengua española*. Espasa, Madrid, págs. 4845-4913.
- Andrés Castellano, Soledad de (2002) “¿”Violencia de género”? “ en Vigara Tauste, Ana M.<sup>a</sup> y Rosa María Jiménez Catalán (eds.) (2002) ‘Género’, *sexo, discurso*. Laberinto, Madrid, págs. 11-45.
- FundéuBBVA(2009) *Dónde dice...* 16, Madrid.
- García Mouton, Pilar(2002) “Género como traducción de *gender*: ¿Anglicismo incómodo? en Vigara Tauste, Ana M.<sup>a</sup> y Rosa María Jiménez Catalán (eds.) (2002) ‘Género’, *sexo, discurso*. Laberinto, Madrid, págs. 133-150.
- Vigara Tauste, Ana M.<sup>a</sup> (2009) “Nombrar en femenino. El caso emblemático de jueza” en Vigara Tauste, Ana María (dir.) *De igualdad y diferencias: Diez estudios de género*. Huerga Fierro, Madrid, págs. 21-76.

## 参考辞書

- Clave: Maldonado González, Concepción (2003) *Diccionario de uso del español actual Clave*.

6ª ed., SM, Madrid.

DRAE: Real Academia Española (2001) *Diccionario de la lengua española*. 22ª ed. Espasa.

María Moliner: (2004) *Diccionario de uso del español*. 2ª ed. Gredos. Madrid.

Panhispanico: Real Academia Española (2005) *Diccionario panhispanico de dudas*. Santillana, Madrid.

Salamanca: Gutiérrez Cuadrado, Juan (dir.) *Diccionario Salamanca de la lengua española*. Santillana, Madrid.

ウェブ上の記事(9月16日現在)

[1] “Semenya es hermafrodita” *Mundo Deportivo* 2009.9.12, <http://www.elmundodeportivo.es>

[2] “La campeona Semenya podría ser hermafrodita” *El periódico* 2009.09.12, <http://www.elperiódico.com>

[3] “Semenya es hermafrodita y en Sudáfrica lo saben” *La vanguardia* 2009.08.21, <http://lavanguardia.es>

[4] “El Gobierno sudafricano declarará la Guerra a la IAAF si excluye a Semenya” *Epa* (european pressphoto agency) 2009.09.11 <http://www.google.com/hostednews/epa/> (Por Agencia EFE)

[5] “El síndrome de Semenya” *El país* edición impresa 2009.08.26, <http://vanguardia.com.mx>

[6] “El sexo no es solo una Y” *El país* edición impresa. 2009.0825, <http://elpais.com>

[7] “Semenya causaría una “guerra mundial” *El universo*, 2009.09.13, <http://www.eluniverso.com>

[8] “Eran hombres y compitieron como mujeres” *El universo* 2009.08.25, <http://www.eluniverso.com> (AFP/Berlín)

[9] “Tormenta de especulación sobre Semenya” *BBC Mundo* 2009.09.11, <http://www.bbc.co.uk/mundo/>

[10] “IAAF tiene pruebas de género de Semenya; indignación den Sudáfrica” *Univision.com* 2009.09.11, <http://www.univision.com> (AP)

[11] “Federación sudafricana analiza caso Semenya” *El universal* 2009.09.12, <http://www.eluniversal.com.mx>

[12] “Los exámenes indican que Caster Semenya es hermafrodita” *ABC* 2009.09.11 <http://www.abc.es>